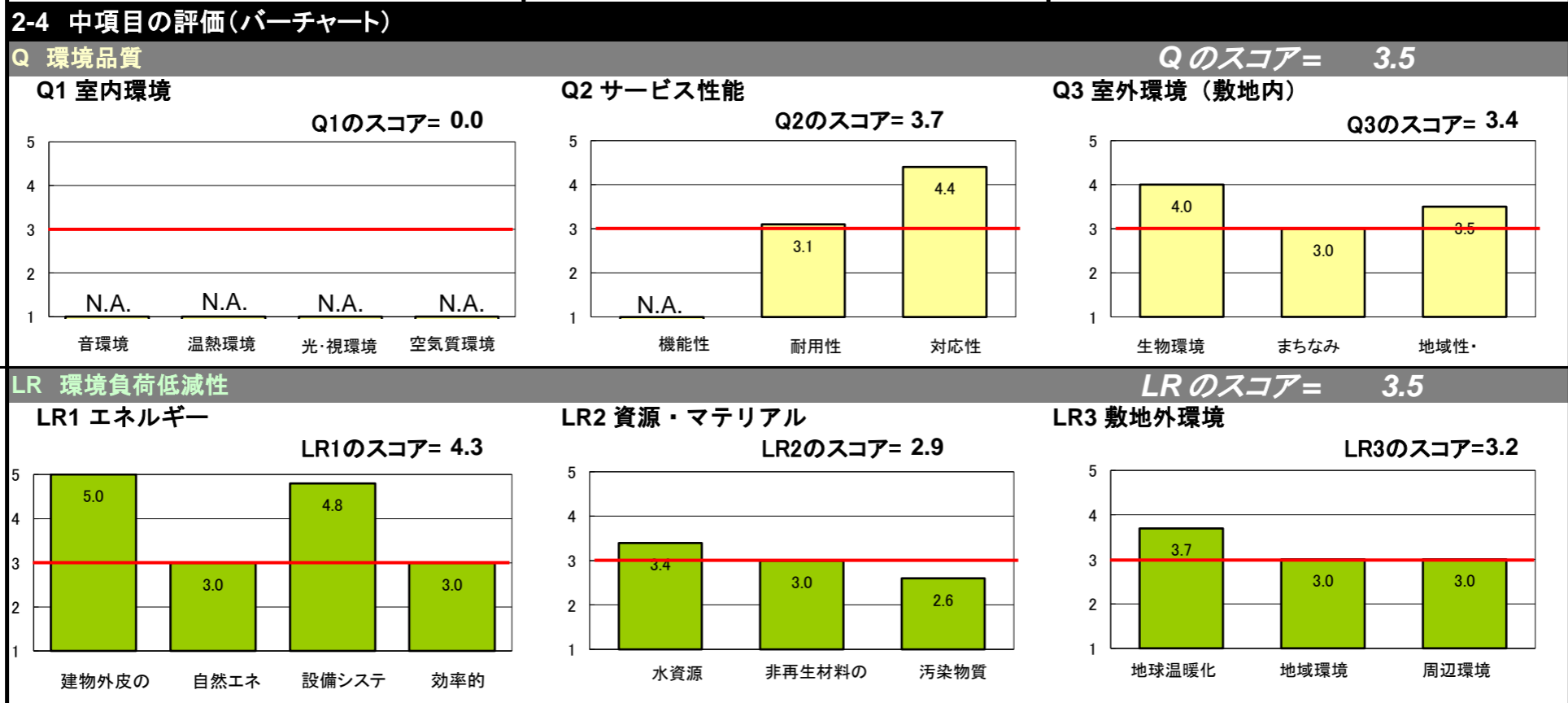
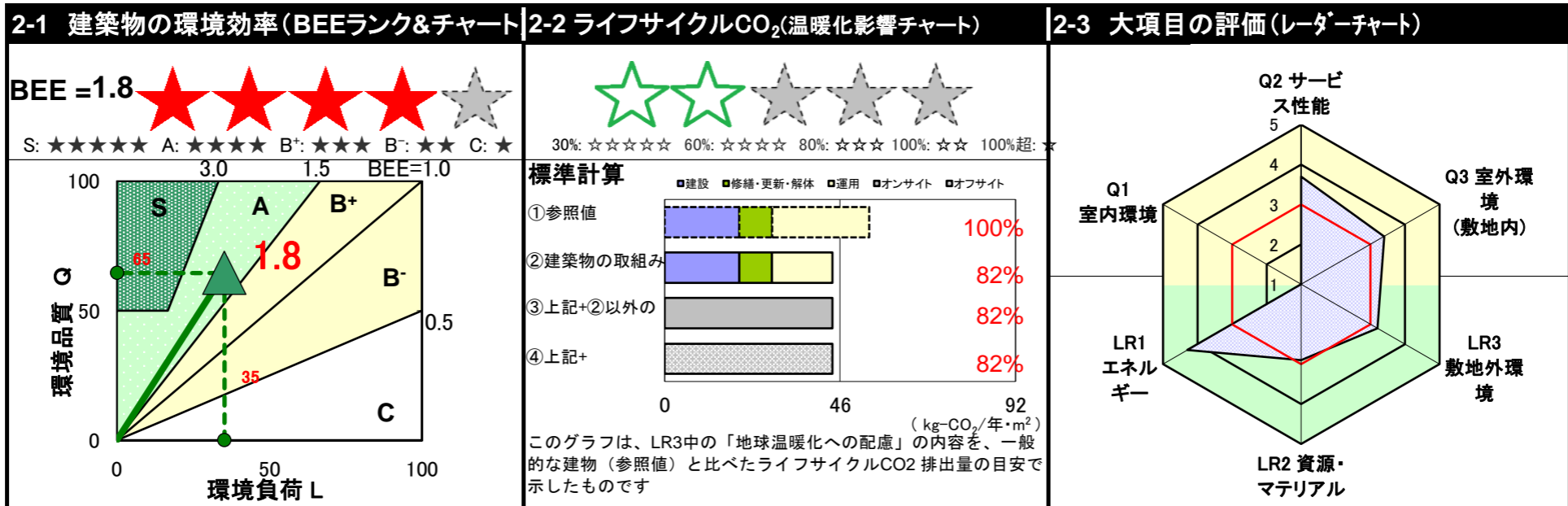


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタテクニカルセンター下山 Ⅱ期中工区 宅盤5 実験棟Ⅱ	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県豊田市下山町下町字上1番地他309筆 岡崎市外山町字モリヤQ番地14他157筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	316 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年11月28日
敷地面積	1,636,061 m ²	作成者	森 明生
建築面積	5,094 m ²	確認日	2020年11月28日
延床面積	19,029 m ²	確認者	森 明生



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>72.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.5</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>御影石</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル												3.0	
1.2 遮音												-	
1 開口部遮音性能												-	
2 界壁遮音性能												3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0	
1.3 吸音												3.0	
2 温熱環境												-	
2.1 室温制御												-	
1 室温												3.0	
2 外皮性能												3.0	
3 ゾーン別制御性												3.0	
2.2 湿度制御												3.0	
2.3 空調方式												3.0	
3 光・視環境												-	
3.1 昼光利用												-	
1 昼光率												3.0	
2 方位別開口												3.0	
3 昼光利用設備												3.0	
3.2 グレア対策												-	
1 昼光制御												3.0	
3.3 照度												3.0	
3.4 照明制御												3.0	
4 空気質環境												-	
4.1 発生源対策												-	
1 化学汚染物質												3.0	
4.2 換気												-	
1 換気量												3.0	
2 自然換気性能												3.0	
3 取り入れ外気への配慮												3.0	
4.3 運用管理												-	
1 CO ₂ の監視												3.0	
2 喫煙の制御												3.0	
Q2 サービス性能												0.43	
1 機能性												-	
1.1 機能性・使いやすさ												-	
1 広さ・収納性												3.0	
2 高度情報通信設備対応												3.0	
3 バリアフリー計画												3.0	
1.2 心理性・快適性												-	
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0	
2 リフレッシュスペース												3.0	
3 内装計画												3.0	
1.3 維持管理												-	
1 維持管理に配慮した設計												3.0	
2 維持管理用機能の確保												-	
2 耐用性・信頼性												0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振												0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0	
2 免震・制震・制振性能												3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数												0.3	
1 躯体材料の耐用年数												3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												4.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔												3.0	
2.4 信頼性												0.1	
1 空調・換気設備												3.0	
2 給排水・衛生設備												3.0	
3 電気設備												3.0	
4 機械・配管支持方法												3.0	
5 通信・情報設備												3.0	

独自

②

②

官庁営繕の値による
厨房排気ダクト・エンジン排気ダクト共ステンレス製
給水C・B、排気B、空調冷媒C

節水型器具、中水利用、蛇口あり

3 対応性・更新性			0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	3.4
1	生物環境の保全と創出	独自③	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.48	3.0	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.62	3.0	4.8	0.50	-	-	4.8
4	効率的運用		0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1	水資源保護		0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	胴縁;パネル・断熱(GW)	3.0	5.0	0.25	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		0.2	2.6	0.22	-	-	-	2.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		0.6	2.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	2.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	①	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2	地域環境への配慮		0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3	周辺環境への配慮		0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3	光害の抑制		0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタテクニカルセンター下山 Ⅱ期 中工区 宅盤5 実験棟1

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:72.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	御影石

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタテクニカルセンター下

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・車両開発の生産性向上 ・自然エネルギーを積極的に活用し、居住環境にも配慮した省エネルギーな施設づくり ・人と自然がつながる自然共生型施設の実現
Q1 室内環境	整備エリアの天井、柱は極力仕上げ無し仕様とし、倉庫のボード壁も素地仕上げとすることで、内装仕上げの更新などのメンテナンス頻度が少なくなるように配慮。
Q2 サービス性能	社員の休憩スペースの充実、車両整備エリア内で一体利用できるオープンな詰所などによりアメニティ向上
Q3 室外環境(敷地内)	積極的な敷地内緑化により、敷地内の温熱環境に配慮。
LR1 エネルギー	用途に合わせた空調方式の採用、LED照明・照明制御により消費エネルギーを低減。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具は節水型を採用し、F☆☆☆☆建材の採用により、地球環境に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地内緑化によりCO2削減。十分な駐車スペースや廃棄物処理スペース、荷捌きスペースを確保。
その他	